

道徳の時間学習指導案

海田町立海田小学校

- 1 日時 平成29年4月21日(金) 第2校時
- 2 学年 第6学年2組 男子13名 女子16名 29名
- 3 主題名 「環境のためにできること」 内容項目 3-(2) 自然愛・環境保全
【特別な教科 道徳 内容項目 D(18) 自然愛護】
- 4 ねらい 北極の氷が解けてシロクマが命の危険にさらされていることと、今の生活をするためには電気やガスが必要であることを知った上で、環境を守るために自分たちにできることは何かを考え、環境問題を自分たちにかかわることとして捉えて話し合い、判断しようとする力を育てる。
- 5 資料名 「シロクマが危ない」 (自主開発資料 参考資料: DVD「アース」
JCCCA子どもプラザ-<http://www.jccca.org/kids/ondanka.html>)

6 主題設定の理由

- 古来日本人は、自然から受ける様々な恩恵に感謝し、自然との調和を図りながら生活を営んできた。自然に親しみ、動植物が自然の中でたくましく生きてきた知恵や巧みさについて学んできた。そして、自然と一体になりながら動植物を愛護し、豊かな情操を育ててきたのである。動植物は自然環境の中で生きており、それぞれの環境に適応して生活を営んでいる。人間も地球に住む生物の一員であり、環境との関わりなしには生きていけない存在である。自然の美しさやすばらしさには、理屈抜きで感動する。また、自然の中で育まれた伝統文化は人々の心を潤し、自然と人間のよい関係を象徴するものである。一方、人間の力を超えた自然の驚異は、その不思議さにとどまらず、偉大なる自然の前に人間の無力さを見せつけられることもある。科学技術の進歩等に伴う物の豊かさ、便利さは、人間が本来もっていた感性や資質を弱くしてしまっているとも言われる。環境破壊が地球規模で進んでいく中で、自分たちが身近な暮らしの中でできることは何だろうか考えることは、現状の改善に自分たちのできることから少しずつ実際に取り組んでいくことにつながると考えた。また、自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度は、地球全体の環境の悪化が懸念され、持続可能な社会の実現が求められている中で、特に身に付けなければならないものである。

本教材は、地球温暖化によりシロクマが絶滅の危機にさらされていることを知り、地球の環境を守るために自分たちができることを考えていくものである。地球の環境を守ることは大切であるというという考えと、現実問題としての環境保全の難しさとの挟間で葛藤する過程を通して、子どもたちが生活上の問題に直面したとき、状況を多面的に深く考え判断できる力を養うとともに、自分にできる範囲で自然環境を大切に、接続可能な社会の実現に努めようとする態度を育むのに適した教材である。

- 児童観省略
- 指導に当たっては、自然環境と人間との関わりから、人間の生活を豊かにすることを優先し、十分な思慮や節度を欠いて自然と接してきたことに気付かせたい。その上で、人間も自然の中で人間と自然や動植物との共存の仕方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境を大切に、持続可能な社会の実現に努めるためにできることを考えさせたい。そのために、国語科「イースター島にはなぜ森林がないのか～子ども地球サミットを開こう～」と関連させた総合単元的プログラムを作成し、地球の環境を守ることは動植物のためだけでなく、自分や自分の子孫の生活を守ることにもつながると言うことに気付けるようにしたい。導入では地球温暖化について知り、第1回目の判断をすることで、環境保全は大切であるという共通認識をもって議論を開始する。さらに展開前段でDVDを見て、地球温暖化によってシロクマが絶滅の危機にさらされていることを知り、「何とかしたい。」という気持ちをもった上で2回目の判断をする。児童の心情としては、今の生活より環境保全に気持ちが傾くことが予想される。ここで、現実問題として自然を守るた

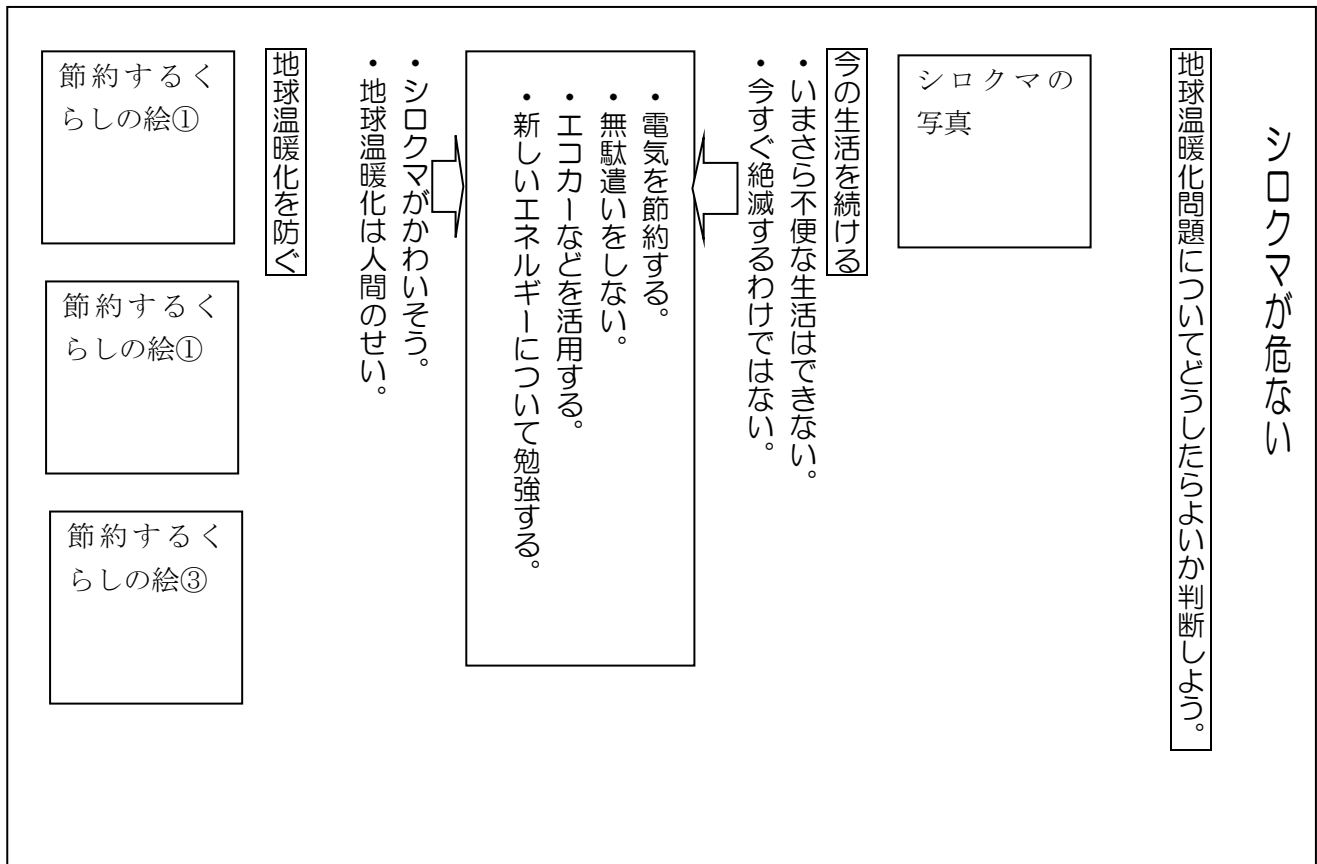
めの生活を送ると、どのような不便な出来事が起きるのかを知らせて、児童に葛藤させる場面を作る。この過程を通して児童は、人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境を大切にするためにどうすれば良いのか判断しようとする力をつけることができると考えられる。展開後段では第1回子ども地球サミットを開き、それぞれの考えを交流することで生活につなげていく。また、学習の最後に、第2回子ども地球サミットを開くことを伝え、長期的なスパンで環境問題について考えていこうとする意欲をもつことができるようにし、国語科「イースター島にはなぜ森林がないのか～子ども地球サミットを開こう～」につなげていく。

7 指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点 (○支援 ☆児童への評価の観点 ★指導者への評価の観点)
導入	1 温暖化について知り、1回目の判断をする。	○地球温暖化を防ぐことと今の生活と、どちらが大切でしょう。 ●地球温暖化を防ぐ ●今の生活	○温暖化の起きる原因について知り、1回目の判断の材料とする。 ○カラーサインを使い、どちらの気持ちも表せるようにする。
展開前段	2 本時の課題を確認する。		
	地球温暖化問題についてどうしたらよいか判断しよう。		
	3 DVD を観て、2回目の判断をする。	○地球温暖化を防ぐことと今の生活と、どちらが大切でしょう。 ●地球温暖化を防ぐ ・シロクマがかわいそう。 ・地球温暖化は人間のせい。 ●今の生活 ・いまさら不便な生活はできない。 ・今すぐ絶滅するわけではない。	○ DVD を観た上での自分の意見を交流する。 ○ カラーサインを変えていいこととし、変えた理由を聞くようにする。
	4 現実的な問題を考える。	○現実的に考えて、不便な生活ができるでしょうか。 ・大変だ。 ・そこまでのことはできない。 ・どちらも困らない方法を考えたい。	○ガスや電気がないどのような生活を送るようになるかを知り、理想論だけでなく、現実問題として環境保護について考えて判断できるようにする。
	5 最後の判断をする。	◎現実問題として自分たちにできることはどのようなことがあるでしょう。 ・電気を節約する。 ・無駄遣いをしない。 ・エコカーなどを活用する。 ・新しいエネルギーについて勉強する。	○現実問題をふまえたうえで自分たちにできることがないか考える。 ★児童が現実問題として考えることができるような切り返し発問ができていますか。

展開後段	6 第1回子ども地球サミットを開く。	<p>○現実問題として自分たちにできることについて話し合っって判断しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんの意見は自分と似ているな。やはり環境を守るためには、多少は不便な生活もしなければならないな。 ・○○さんの意見は自分とは違っているな。でも、自分にできる範囲でなければ、継続が難しいと言うのは一理あるな。 	<p>○グループでの話し合いをすることで、他者の意見を取り入れた上で自分の判断をする力をつける。</p> <p>☆判断した理由を考えながら自分の意見をもつ事ができたか。</p>
終末	○本時の課題を振り返る。	○自分の考えが深まったことや広がったことについて交流しましょう。	☆友達の意見を受け止めながら聞くことができたか。

8 板書計画



出典(自主開発資料 参考資料：DVD「アース」

JCCCAー子どもプラザー<http://www.jccca.org/kids/ondanka.html>

内容項目 3-(2) 自然愛・環境保全
【特別な教科 道徳 内容項目 D(18) 自然愛護】

資料選定への思い

環境破壊が地球規模で進んでいく中で、自分たちが身近な暮らしの中でできることは何だろうかと考え、現状の改善に自分たちのできることから少しずつ実際に取り組んでいこうという態度と、そのために自分ができることを判断する力を育てることができる。また、国語科と本資料を関連させることで「自然愛護」の価値をより深めていくことができる。

場面	キーワード	発問	発問の意図	予想される児童の反応
温暖化について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・北極の氷が解け、シロクマが絶滅の危機にさらされている。 ・水位が上がって、しずんでしまう島がある。 	<p>○地球温暖化を防ぐことと今の生活と、どちらが大切でしょう。</p>	<p>☆情報が少ない段階での自分の判断をさせることで、これ以降の自身の気持ちの変化を感じ取らせ、より現実問題として問題を捉えることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化でシロクマが困っているんだな。 ・人間でも、困ってしまう人がいるんだな。 ・住むところなくなるのはかわいそうだな。
シロクマの現状を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・北極の氷が解けるスピードがはやくなり、シロクマが氷の上を歩けなくなっている。 ・えさを取ることができないシロクマが増えている。 ・このままでは近いうちにシロクマは絶滅する。 	<p>○地球温暖化を防ぐことと今の生活と、どちらが大切でしょう。</p>	<p>☆地球温暖化について詳しい情報を得た上での判断をすることで、地球温暖化を防ぎたいという共通の意識の高まりを感じ取らせ、現実問題として中心発問でより真剣に自分自身のこととして考えることができるようにつなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シロクマがかわいそうだな。 ・このままだと小熊も弱ってしまうかもしれないな。 ・なんとかしないとイケない。 ・地球温暖化を防がなければ。 ・多少不便な生活になっても、地球温暖化を防いだほうがいい。
現実問題として考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンを使わない生活。 ・電気を使わない生活。 ・ガスを使わない生活。 	<p>○現実的に考えて、不便な生活ができるでしょうか。</p> <p>○現実問題として自分たちにできることはどのようなことがあるでしょう。</p>	<p>☆物事を多面的多角的に捉えて自分で考え、判断する力をつける。</p> <p>☆友達の見解を受容する心を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いまさら不便な生活はできない。 ・今すぐ絶滅するわけではない。 ・どちらも困らない提案ができないだろうか。 ・電気を節約する。 ・無駄遣いをしない。 ・エコカーなどを活用する。 ・新しいエネルギーについて勉強する。



主題 環境のためにできること

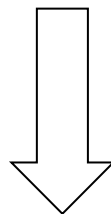
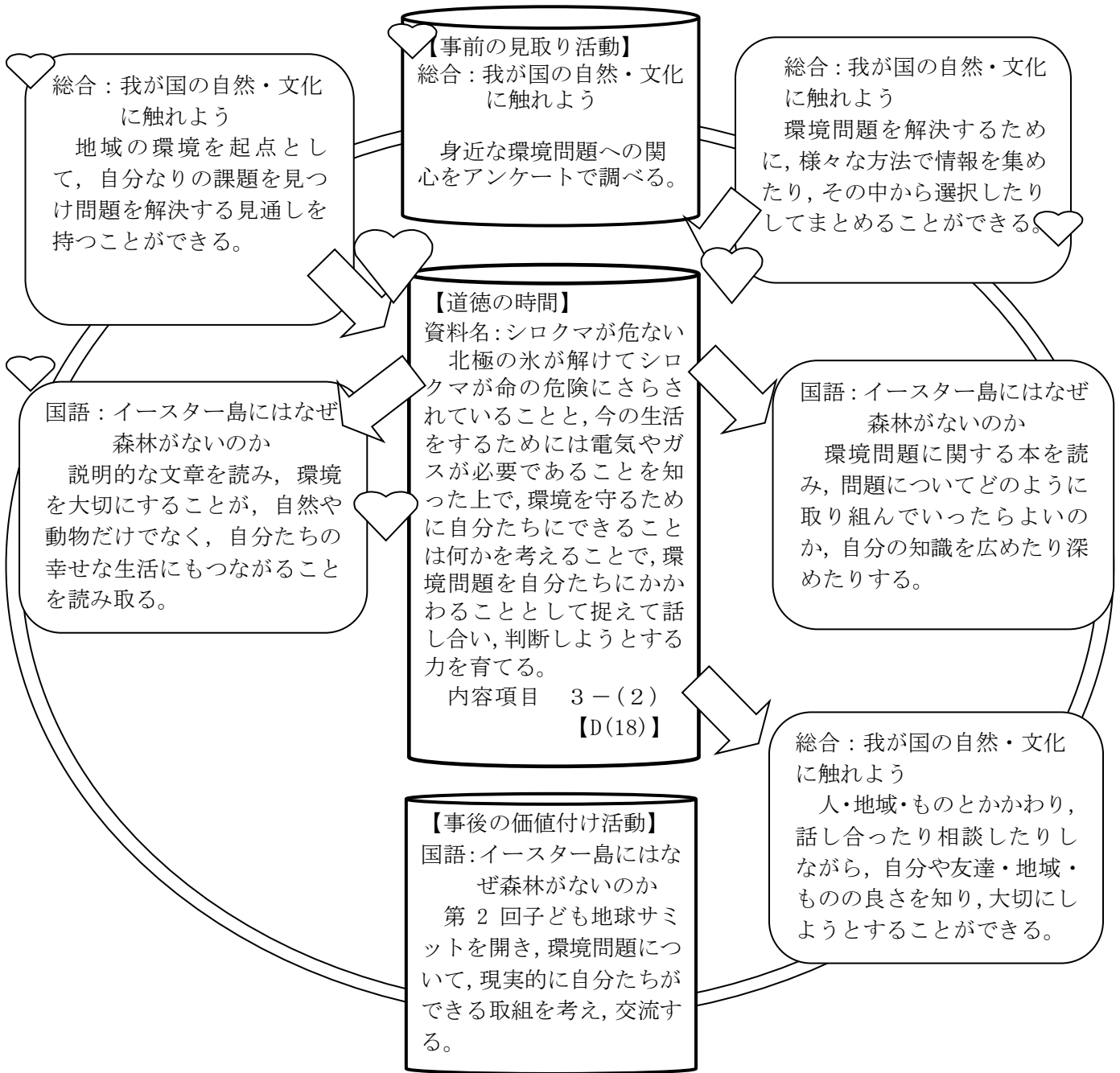
内容項目 3-(2) 自然愛・環境保全

【特別な教科 道徳 内容項目 D(18) 自然愛護】

本時のねらい

北極の氷が解けてシロクマが命の危険にさらされていることと、今の生活をするためには電気やガスが必要であることを知った上で、環境を守るために自分たちにできることは何かを考えることで、環境問題を自分たちにかかわることとして捉えて話し合い、判断しようとする力を育てる。

ぐんぐんプログラム



- 人間も自然の中で人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境を大切にし、持続可能な社会の実現に努めるためにできることをしようとする態度を育てる。
- 自然愛護を身近な問題として捉え、きれいごとだけの意見だけでなく、実現可能な解決策について考え、友達の見解も取り入れながら考えを広げたり深めたりして、判断する力を育てる。